

## 公益社団法人 埼玉県理学療法士会 令和6年度定時総会議事録

1. 開催日時 令和6年6月16日(日)13時～15時
2. 開催場所：大宮ソニックシティ 小ホール(埼玉県さいたま市大宮区桜木町1丁目7-5)  
※インターネット中継あり
3. 理事・監事の数及び出席理事監事の数
  - (1) 理事数 18名、監事 2名
  - (2) 出席理事数 15名(欠席：兵頭甲子太郎、赤坂清和、杉本諭)  
出席監事数 1名(欠席：矢野秀典)
4. 司会 水田宗達(副会長)
5. 定足数報告(会員数及び出席会員数)
  - (1) 会員総数：5,294名(令和6年6月1日現在)
  - (2) 出席会員数：140名(議決権行使数：3,169名)
6. 開会の辞 田口孝行(副会長)
7. 会長挨拶 南本浩之
8. 特別講演  
令和6年度診療報酬改定時の処遇改善の取り組みと今後の取り組み  
講師：参議院議員 田中昌史 先生
9. 議決事項
  - (1) 第1号議案
    - 1) 令和5年度事業報告並びに令和5年度貸借対照表、損益計算書、財産目録の承認を求める件
    - 2) 令和5年度監査報告
  - (2) 第2号議案  
令和6年度事業計画並びに予算案の承認を求める件
10. 議長団選出の経過
  - (1) 定款に定めた定足数の出席があったことを司会者 水田宗達氏が報告した。議長・副議長の選出について一同に諮ったところ、会場より執行部一任の提案がなされ、議長・副議長が選任された。  
議長：金子佳弘氏(済生会川口総合病院)  
副議長：馬場章人氏(宏仁会小川病院)
  - (2) 議長により書記が選任された。  
書記：飯塚雄大氏(熊谷生協ケアセンター)  
富田昌延氏(行田中央総合病院)
11. 議事の詳細
  - (1) 第1号議案
    - 1) 令和5年度事業報告並びに令和5年度貸借対照表、損益計算書、財産目録の承認を求める件
      - ①南本会長より、令和5年度事業執行の総括を報告  
今年度は、定款にある「理学療法士の人格、倫理及び学術技能を研鑽し、理学療法の普及向上を図り、以って埼玉県民の医療・保健・福祉の増進に寄与することを目的とする」のもと、理学療法の質向上に対し令和5年度重点目標として生涯学習の推進及び理学療法研究、特に若手

研究者の育成推進を図ってきた。専門性向上に対しては理学療法士の技能及び働き方の発展や地域共生社会に向けた理学療法士の役割強化、そして地域共生社会問題への取り組みを推進してきた。組織評価としては会員相互のつながり強化を重点課題として取り組んだ。WEB や対面での事業開催や研修会を開催し、様々な目標を達成できるように努めてきた。専門分野の拡大に対しては、新たにウィメンズヘルスの活動が開始され研修会に多くの会員の皆様にご参集頂いた。県民に対して、事業局や広報局、各ブロックの取り組みにて小児から高齢者の皆様方や医療介護事業所等の専門職、スポーツ競技選手の方々に支援活動を行ってきた。また、広報誌や動画配信、ラジオなどを使用し県民の皆様に啓発活動を行った。第 42 回関東甲信越ブロック理学療法士学会は、ハイブリット開催とさせていただき、参加者数 1,576 名と多くの会員の皆様のご協力のもと盛会に終えることが出来た。また、創立 50 周年記念式典を開催し、大野埼玉県知事はじめ多数のご来賓の皆様にご参加いただき盛会に終えることが出来た。以上令和 5 年度の事業執行報告概要となる。

## ②各理事より各局、部、ブロックの令和 5 年度事業について報告

事務局：総務部は内外公文書管理、法人業務を主に行った。庶務部は会員の管理、議事会の開催、役員連絡会、代表者会議など士会に必要な事務的な運営を行った。総会運営部は年 1 回開催されている総会の準備運営を行った。管財資料部は士会内の資料整理、保管、破棄、士会の備品管理を行った。厚生部は新人歓迎会を WEB にて開催、会員懇親会も WEB にて開催、団体保険の管理を行った。労務管理部は事務員の給与・賞与に関する事、その他労務管理に関する書類手続き等を行った。

財務局：出納部、会費管理部、財務渉外部から構成しており、前年度同様の活動を行っている。昨年度から各部局の予算執行、予算編成の手伝いを行っている。打ち合わせも積極的に行い、次年度の予算編成等に役立ててもらっている。

事業局：高齢者福祉部は埼玉県リハビリテーションマップ、生活期リハビリテーション研修会、彩の国老健広場、失語症向けの意思疎通事業等感染の対策を取りながらオンライン、または昨年度からは対面での研修会を再開している。小児福祉部は子供の福祉機器体験会、療育関係者のための研修会、埼玉県児童発達支援事業職員実践交流セミナー等を実施した。特にコロナ禍で中止となっていた、療育関係者の為の研修会は他団体との共催の活動として多くの参加をいただいた。健康増進部は一般公開講座、介護保険サービス事業所支援事業、理学療法週刊協力事業を計画通り実施した。スポーツリハビリテーション推進部は、スポーツリハビリテーション技術研修会を計 4 回、パラスポーツ活動、ボート競技のサポート活動、高校野球のサポート活動、高校硬式テニスのサポート活動を中心に活動してきた。

学術局：理学療法編集部では例年通り雑誌編集業務を中心に取り組んできた。雑誌の投稿論文数も増加してきており、昨年度は研究論文 7 題、調査報告 3 題、症例検討 1 題を掲載した。研究推進部では研究補助金事業、若手会員の研究活動支援に取り組んできた。若手会員を対象とした研究支援は昨年度より開始した事業となるが、現在 2 名が事業に参加し、研究計画の作成、研究への支援に取り組んでいる。

教育局：認定・専門研修部は年 6 回の研修会と 2 回の生涯学習の進め方の説明会を開催した。研修会では他県士会の講師を呼んで開催した。前期研修部では、研修は基本オンラインになりますので、生涯学習の説明会や新人理学療法士の交流会を中心に事業展開をしてきた。後期研修部では、症例検討会の取りまとめ、県内では 384 件の症例検討が行われ、8 回の研修会を実施。登録・認定・専門理学療法士管理部は登録理学療法士、認定・専門理学療法士の管理業務を実施した。臨床実習教育部では 2020 年の指定規則改訂により臨床実習指導者要件が講習会を受講する事となったため、受講の講習会とりまとめと受講した後のスキルアップの研修会を開催した。指定管理者研修部では、管理者を対象とした管理者が悩むテーマを取り上げて研修会を 2 回開催した。

広報局：広報誌編集部では広報誌を年2回発行した。インターネット管理部はホームページの管理、WEB 媒体の管理を行いメルマガの配信等を行った。理学療法週間推進部はラジオでの放送、WEB を使用したワンポイントトレーニング、エスカレーター条例の啓発を行った。

職能局：会員個々の職業能力の研鑽は元より、社会における理学療法士の価値を高めることを目的としている。業務推進部は社会における新たな理学療法士の役割についての議論を重ねた。医療保険部と介護保険部は保険領域内での役割についての研修、地域包括ケア推進部は高齢者の健康作りと介護予防に向けた地域づくりを推進するリーダーの育成研修会の企画・運営を行い、例年通り開催を行った。

東部ブロック：全体の活動として交流会議を1回開催し、73名と多くの方に参加いただいた。各エリアで研修会を2～3本、公開講座、啓発活動を2～3本実施しています。啓発活動では多くの県民の方にご参加頂いた。研修会に関しても対面開催を徐々に開催することが出来た。

西部ブロック：全体として、交流会議と公開講座を対面で実施。川越エリアでは研修会を3回、症例検討会を2回実施、症例検討会では参加者が200名を超えている。秩父エリアではWEBで研修会2回、交流会を2回実施。三好エリアではWEBで研修会を2回実施。所沢エリアでは研修会を2回実施。

南部ブロック：各エリアで研修会や交流会等の企画をオンラインで行い、多くの方に参加いただいた。

北部ブロック：事業に関してはリモートを中心に展開してきたが、熊谷エリアでは対面で開催した。内容については研修会、公開講座、交流会議、市町村会議、普及家初活動、症例検討会を実施してきた。

### ③担当理事より各委員会の令和5年度事業について報告

ブロック連絡委員会：会員の交流を広げることと、4つのブロックが同様の事業を行えるように情報の共有を行うために会議を行った。令和5年度より政治関係に対して会員の皆様に身近に感じてもらえるようにするため、研修会と交流会を開催した。

国際スポーツ競技対策委員会：技能検定期前・後期2回、技能検定認定者のためのブラッシュアップセミナー1回、技術研修会5回、スポーツ活動(全日本選手権ボート競技大会、全日本大学選手権ボート競技大会)2回実施。

第42回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員会：本学会が令和5年10月14～15日にハイブリットにて大宮ソニックで開催。総参加人数は1576人、運営スタッフは2日間でのべ126名の協力を得た。発表演題数が234題集まった。

#### 組織運営委員会

財政基盤検討委員会：令和6年度の予算を検討するにあたり、財務局長と部局長との面談を実施し、適切な予算立てを行った。

表彰委員会：本年度の各賞推薦に関して各関係所との情報収集を行い、推薦に関わる書類などの取りまとめを行った。

組織検討委員会：組織の在り方について検討。新型コロナウイルス感染症における在り方検討委員会を解消し、10年後の理学療法を考える委員会と職能局業務推進部との統合を行った。

運営基盤検討委員会：来年度の重点事項や中長期計画を行うにあたり、皆様のご意見を集約し課題の整理を行った。

選挙管理委員会：選挙実施に関する委員会の開催および立候補者の受理、選挙に関する告知を行った。また、日本理学療法士協会代議員選挙の管理委員会の活動も行った。

創立 50 周年記念式典準備委員会：50 周年記念式典および記念誌発行、記念品の準備を行った。

#### 学術教育委員会

埼玉県理学療法学会評議員会：学術評議会を 5 回開催した。

第 32 回埼玉理学療法学会準備委員会：評議委員会を 10 回開催した。

職業倫理委員会：公益社団法人日本理学療法士協会との連携を深めている。職業倫理違反についての情報収集を行った。職業倫理委員会の開催を行った。職業倫理委員会の研修を行った。

#### 専門性委員会

がんリハビリテーション推進委員会：共催事業である第 12 回埼玉県リハビリテーション研修会、チャリティイベントのリレー・フォー・ライフ・ジャパン 2023 川越、啓発活動としてがんリハビリテーション推進委員会研修会を WEB にて開催。

糖尿病対策委員会：糖尿病による循環器障害とフットケアに関する研修会を WEB にて開催。

装具療法地域連携対策委員会：装具療法技術研修会を 3 回、装具作成後のフォローアップ研修会を 4 回 WEB にて開催。装具マップの作成を行った。

学校保健・特別支援教育推進委員会：情報収集のため 5 回の研修会に参加、学校保健及び特別支援教育に関する研修会を各 1 回、ネットワーク構築のための情報交換会を開催。

神経難病リハビリテーション推進委員会：定例研修会以外に、県の難病対策課、難病相談支援センターなどと連携を高め、多職種向けの研修会を 14 回開催した。

ウィメンズヘルス推進委員会：令和 5 年度始まってから新規の専門性委員会として発足。2 回の研修会を行った。

#### 職能委員会

新分野開拓委員会：新規専門性委員会の立ち上げ、準備会議を行った。

訪問リハビリテーション振興委員会：埼玉県作業療法士会、言語聴覚士会と協同し、埼玉県リハビリ 3 団体主催の訪問リハビリテーションコース、Basic コース、Advance コースを開催した。

災害対策委員会：令和 6 年能登半島地震発災を受けて、埼玉県医師会をはじめとした他団体と協同しながら埼玉 JRAT の活動を支援した。

10 年後の理学療法を考える委員会：様々な研修会、会議を開催した。特に 6 月に開催したリハ専門職を取り巻く直近の動向の研修会においては約 120 名の参加があった。また、令和 5 年度の活動をもって職能局業務推進部へ統合される。

新型コロナウイルス感染症における在り方検討委員会：2 回の研修会を開催した。感染症が 5 類移行に伴い、令和 5 年度の活動をもって解消となる。

#### 《令和 5 年度決算》

総会資料に基づき、財務局長より令和 5 年度の決算として収支および支出の報告がされた。貸借対照表について正味財産合計 14,246,708 円との報告があった。正味財産増減計算書から経営収益、経常費用について説明があった。財務諸表に対する注記では特定資産の積立金の報告があった。

## 2) 令和5年度監査報告

令和5年4月1日から令和6年3月31日までの令和5年度公益社団法人埼玉県理学療法士会の事業及び会計の執行を監査した監査結果について、事業内容は適正であり各事業は円滑に実施され、理事の職務執行に関して不正行為や規約に違反する重大な事実はないことを認める。また、事業は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更された中で、対面および沿革を場面に応じて取り入れるなど工夫して適切に行われたものと認める。また、現在会員数は横ばいの状態の中で事業数が増加傾向にあるため、今後事業の整理、見直しを検討されたい。決算に関して、収益計算書、貸借対照表は帳票等の記載金額と一致し、公益社団法人埼玉県理学療法士会の収支および財産の状況を正しく示しているものと認める。その他として、会員の組織率向上については引き続き努力されたい。

### 《第1号議案についての質疑応答》

質問なし。

### 第1号議案

- 1) 令和5年度事業報告並びに令和5年度貸借対照表、損益計算書、財産目録の承認を求める件
- 2) 令和5年度監査報告に関して挙手にて承認の是非を諮り、議決権行使書を含めた3,288名の賛成が得られた。定款第19条1項に基づき総会員数の過半数(5,294名中3,288名)の賛成を得たため、第1号議案は可決承認された。

### (2) 第2号議案

令和6年度事業計画並びに予算案の承認を求める件

#### ① 南本会長より総括が説明なされた。

令和6年度、理学療法士の専門性向上については、重点目標として、生涯学習の推進、理学療法研究機会の推進、理学療法技能向上の促進に取り組む。コミュニケーション促進については、会員相互の交流、連携機会を強化、研修会を継続し、顔の見える人的交流を推進、会員の専門性の向上によりネットワークの促進に努める。理学療法士の発展推進については、倫理規範の強化、及び、政治活動の推進などに尽力する。また、地域社会への貢献を推進し、ケアラーやエスカレーターなどの社会問題に対し、取り組みを促進し、多くの県民に理学療法の重要性を伝える。会員管理・財務管理・事業調整などを行う。今後も会員から県士会活動に対する意見聴取の機会を増やし、重点課題の立案を図り、士会活動に繋げる取り組みを行う。当会50年で得た活動の経験を基盤に、この先の理学療法が盤石な体制になることを目指し、埼玉県理学療法士会の活動に取り組む。

#### ②各理事より各局、部、ブロックの令和6年度事業計画について説明がなされた。

事務局：前年度と同様の計画。バックオフィスとして、士会の運営が円滑に進むようにサポートする。

財務局：出納部、会費管理部、財務渉外部ともに例年通りの事業計画。

事業局：高齢者福祉部、小児福祉部、健康増進部、スポーツリハビリテーション推進部ともに前年度と同規模。対面開催の事業、共催開催の事業を多数予定している。

学術局：理学療法編集部は、理学療法臨床研究教育の編集に携わる。より多くの方に論文を投稿していただきたい。研究推進部は、補助金事業を若手会員の研究活動支援に取り組む。研究活動支援は実施から2年目を迎え、参加者の研究計画作成も順調。外部の方も交え、進捗状況の報告会を予定。

教育局：認定・専門研修部は研修会6回開催予定。前期研修部は、新入会員の自己研鑽として生涯学習プログラムの受講推進に努める。参加推奨を協力していただきたい。後期研修部は、研修会4回、症例検討会6回、県内の症例検討会の認定とりまとめを実施予定。登録・認定・専

門理学療法士管理部は、登録管理、調査2回程実施し、生涯学習の意味ある進め方を探る予定。臨床実習教育部は、県内13養成校と関係を密にし、臨床実習指導者講習会の推進、臨床実習指導者のスキルアップ研修を開催予定。実習生のハラスメントが実在するため、臨床実習指導の知識・技術、倫理性の向上のために参加していただきたい。指定管理者研修部は、管理者の悩みやニーズに対応した研修会を開催予定。

広報局：広報誌編集部は、広報誌を年2回発行、1回はアンケートを付ける予定。インターネット管理部は前年度同様、HP、SNS、メールマガジンの管理運営を行う。理学療法週間推進部は、今年度は理学療法フェスタ2024を対面開催予定。

職能局：業務推進部は地域共生社会における理学療法士の活躍の場を広げることを目標に、士会役員・協会代議員・連盟役員と共同する。医療・介護保険部は、報酬改定の対応について主に研鑽する。地域包括ケア推進部は新たなフェイズの地域づくりに協力できる人材育成を企画する。社会のために活躍できる理学療法士の育成を職能局として継続する。

東部ブロック：ブロック全体として、交流会議、交流会を開催する。北エリアは、研修会3回、交流会1回、啓発活動1回開催予定。中央エリアは、研修会3本、交流会1回、啓発活動2回開催予定。南エリアは、研修会2回、交流会1回、交流会議1回、啓発活動2回予定。

西部ブロック：ブロック全体として、公開講座、交流会議を予定。4エリアで、研修会9回、症例検討会5回予定。前年度に引き続き、理学療法の発展と横の繋がりを作る。

南部ブロック：各エリアで多数の研修会、交流会を計画。これまでのエリア毎にネットワークづくり、若い理学療法士の方が興味を持てる企画を開催予定。

北部ブロック：研修会、公開講座、交流会議、市町村会議、普及啓発活動、症例検討会を実施。地域に向けた発信、会員数増加を目的にした活動を展開する。

### ③ 担当理事より各委員会の令和6年度事業計画について説明がなされた。

ブロック連絡委員会：会員相互の交流を続けること、4ブロックが同様の事業が行えるように情報共有のための会議を行う。

国際スポーツ競技対策委員会：昨年度と同様に技能検定期前・後期各1回、技術研修会4回、支援活動はさいたまマラソン大会におけるランナーケア活動など計3回予定。

#### 組織運営委員会

財政基盤検討委員会：令和7年度の予算案の作成、士会適正化の検討を行う。

表彰委員会：各種表彰推薦に関する事業に取り組む。

組織検討員会：中長期計画、重点事項に基づいた組織の検討、及び、協会の組織変更に応じた組織変更の必要性を検討する。

運営基盤検討委員会：次年度の重点事項、中長期計画の作成に当たり、意見を集約し、課題整理。多くの意見聴取を目的とした研修会、交流会と連携を図る。

選挙管理委員会：日本理学療法士協会選挙委員会の活動に参加する。

学術教育委員会：総会資料 委員長山田氏が誤植。評議委員会の開催、第32・33回埼玉県理学療法学会の開催の準備、職業倫理委員会も昨年同様の開催規模で実施。第32回埼玉県理学療法学会は7/1より演題募集、多くの方の演題登録と参加をお願いします。

#### 専門性委員会

がんリハビリテーション推進委員会：共催事業、チャリティーイベントの参加、啓発研修会を開催予定。

糖尿病対策委員会：糖尿病理学療法研修会、県内PTネットワーク構築のためのLINE公式アカウントを利用した取り組みを進める。

装具療法地域連携対策委員会：装具研修会の開催、委員会HP充実化に取り組む

学校保健・特別支援教育推進委員会：研修会の開催、本年度より認定スクールトレーナーの情報収集、県土会の対応について検討する

神経難病リハビリテーション推進委員会：神経難病の研修会、家族会、他職種への啓発普及活動を予定。

ウィメンズヘルス推進委員会：理学療法士を対象にした研修会の他、一般女性を対象にしたイベントを実施予定。ウィメンズヘルスの理学療法を提供できる施設マップを作成予定。

#### 職能委員会

新分野開拓委員会：新分野開拓の必要性・可能性、新規専門性委員会の立ち上げ準備を実施。

訪問リハビリテーション振興委員会：訪問リハビリの充実は国も求めている。今年度も3団共催し、Basic・Advanceコースの実務者研修、未経験・初学者向けのスタートアップセミナーを開催予定。

災害対策委員会：能登半島地震を受け、初動となるRスタッフ、JIMTEF研修の養成推進。能登半島地震では、多くの会員が埼玉JRATとして活動。新規事業としては、災害リハビリテーションの啓蒙活動、有事に備えるために県内ネットワークの構築、全国JRATの情報共有を行う。

#### ④ 総会資料に基づき、財務局長より令和6年度の予算案について説明がなされた

会費収入として5,611万円。賛助会員の会費については57万円。前年度と変更なし。

事業収入は、昨年度と大幅に異なるものとして、埼玉県理学療法士学会が行われる関係で、参加費項目が138万円、理学療法士協会からの補助金が内訳との通り。結果、6,174万円が収入の部としての予算案。

支出としては、理学療法推進事業として905万円。理学療法関連の情報提供等に関する事業として1,024万円、前年比59万円増額。理学療法士教育に関する事業として2,809万円、前年比319万円増額。理学療法業務推進に関する事業費は495万円、前年比1,228万減額。昨年度は50周年記念式典を行った関係が大きいと考えられる。

管理費は、会議費・旅費438万円、前年比60万円増額。通信費338万円、前年比103万円減額。

厚生比60万円、対面開催を企画しているため増額。その他、管理費合計2,514万円。

#### 《第2号議案についての質疑応答》

○会員数の増加、組織率の向上のために、具体的な手段・目的を教えてください。

南本会長より、新人オリエンテーション、福利厚生、学会の会員支援などを行う。理事会に承認前であるが、20・30代の意見集約のための委員会を設置する予定。横断的に進めること、予算化し、退会抑制に向けて事業を進める。

○ベースアップ評価料、賃金アップが進んでいない事業所がある。PTとして経営側に働きかけたいが、制度が複雑である。士会から研修会など企画しているか。

岡持副会長より、6月から診療報酬改定されたが、昨年度末、代表者会議を開催し、情報共有の場を持った。今後も、施設管理者に向けた情報提供が必要であり、情報共有の場を設ける予定。7月職能局業務推進部で次年度埼玉県県予算の要望を取りまとめること、議題に挙げる予定。会員の方にも二次的に伝わるよう取り組む。

○2023年度の予算が全体としてスリムであるが、事業数は前年度を踏襲している。今後の有効性の評価、整理方法を教えてください。

南本会長より、事業拡大により会員の負担が増えている。理学療法士の活躍できる場が増えており、網羅する事業展開を行う。一方、公社の特殊性により、黒字を持ちこせない財務状況がある。昨年度、財務整理され、予算が明確化された。今年度11・12月、次年度予算を組みが行われる。その前に重点項目を検討する必要がある。会員の声を集約し、入会促進・退会抑制、会員のための予算配分をしていく。

## 第2号議案

令和6年度事業計画並びに予算案の承認を求める件

に関して挙手にて承認の是非を諮り、議決権行使書を含めた3,284名の賛成が得られた。定款第19条1項に基づき総会員数の過半数(5,294名中3,284名)の賛成を得たため、第2号議案は可決承認された。

### (3) その他

- ・議長より、総会資料111ページ役員選任は誤植と報告があった。
- ・質問・意見なし

以上をもって、議長は本会議のすべての議案が終了した旨を告げ、書記・議長・副議長を解任した。

## 12. 閉会の辞：原田慎一(副会長)

本会議の議事内容を明確にするために本会議事録を作成し、本会議の内容を証明するため議長および代表理事は、以下に署名捺印を行う。

以上

令和6年 6月16日

公益社団法人 埼玉県理学療法士会 令和6年度定時総会

議長

代表理事